

10/509579
Rec'd PC●TO 29 SEP 2004
PCT/JP 02/04170

#2

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

25.04.02

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2002年 4月 2日

REC'D 21 JUN 2002
WIPO PCT

出 願 番 号
Application Number:

特願2002-100529

[ST.10/C]:

[JP2002-100529]

出 願 人
Applicant(s):

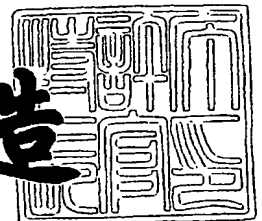
小澤 茂男

PRIORITY
DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2002年 5月29日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2002-3040928

BEST AVAILABLE COPY

【書類名】 特許願

【整理番号】 K3191H05

【あて先】 特許庁長官 及 川 耕 造 殿

【国際特許分類】 A47J 27/00

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区三田二丁目 7 番 9 号

 【氏名】 小 澤 茂 男

【特許出願人】

 【住所又は居所】 東京都港区三田二丁目 7 番 9 号

 【氏名又は名称】 小 澤 茂 男

【代理人】

 【識別番号】 110000051

 【氏名又は名称】 特許業務法人共生国際特許事務所

 【代表者】 瀬 谷 徹

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 145437

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 食品調理容器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 食品素材を外部加熱手段で加熱調理するように、ポリオレフィン系のシートで形成した食品調理容器であって、

2 枚重ね合わせた前記シートの側周を接着して形成した接着部と、
前記接着部とは別に、その接着強度よりも弱い接着強度で接着した調圧部と、
を備え、

加熱で発生する蒸気圧で、前記調圧部を押し開くように構成したことを特徴とする食品調理容器。

【請求項 2】 食品素材を外部加熱手段で加熱調理するように構成した食品調理容器において、

開口部の周縁を縁取りして形成した容器本体と、
前記容器本体を覆うと共に、前記開口部の周縁で接着された蓋体と、
前記蓋体の一部が、加熱で発生する蒸気圧で剥離するように、前記容器本体に対する接着力を弱めて形成した調圧部と、

前記食品素材を味付けするために、前記食品素材に載置して設けた調味料パックと、を備えたことを特徴とする食品調理容器。

【請求項 3】 前記食品素材が麺類やパスタ類であり、前記容器本体を有底筒状に形成したことを特徴とする請求項 2 に記載の食品調理容器。

【請求項 4】 前記食品素材がうな重や鰻の蒲焼であり、前記容器本体を箱型に形成すると共に、前記蓋体が角部で剥離するように形成したことを特徴とする請求項 2 に記載の食品調理容器。

【請求項 5】 前記調味料パックは、ご飯の上に載置され、鰻は、前記調味料パックの上に載置されるように構成したことを特徴とする請求項 4 に記載の食品調理容器。

【請求項 6】 前記調味料パックは、前記蓋体と連結して形成したことを特徴とする請求項 2、3、4、5 の何れか 1 項に記載の食品調理容器。

【請求項 7】 前記調味料パックは、手で把持可能につまみ部を備えて形成

した第1のシートと、前記シートに重なるように形成した第2のシートと、前記第1、第2のシート間に収納される液体調味料と、を備え、

前記第1、第2のシートの周囲は、その一部に、加熱で発生する蒸気圧で開口し、前記液体調味料が流出するように、接着力を弱めて剥離部を設けたことを特徴とする請求項2、3、4、5、6、7の何れか1項に記載の食品調理容器。

【請求項8】 前記つまみ部は、シートの一部を折り畳むと共に、その折り畳み部分を接着して形成したことを特徴とする請求項7に記載の食品調理容器。

【請求項9】 前記調味料パックは、食品素材と共に食することができるように、可食素材で形成したことを特徴とする請求項2、3、4、5、6、7の何れか1項に記載の食品調理容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、電子レンジのような、電磁波を用いた外部加熱手段で、食品素材が調理されるように構成された食品調理容器に関する。

【0002】

【従来の技術】

電子レンジで加熱するだけで、簡単に食することができるようにした加工食品は、その多くが味付けされた状態で販売されている。また、このような加工食品の一部には、加熱による水分の蒸発から、食品が乾燥することを防ぐため、水を振掛けもしくは水に浸して加熱するような手間を要するものもある。しかし、加熱による食品の乾燥を防ぐには、密封容器内で食品を加熱すれば良いのであるが、そのような状態で加熱すると、密封容器内が高圧になることによる容器の破裂等の危険性があり、発生する蒸気圧をどのように取り除くのが問題となっていた。このような問題を解決するものとして、特開2000-238860には、調理済食品用の包装容器が開示されている。この公報における食品用包装容器は、容器本体と、通気孔及び折曲部が設けられた蓋材とで構成されており、通気孔は、その折曲部が蓋材の平坦部上に接着して塞がれており、外部加熱による蒸気圧で、その折曲部での接着が剥がれるように構成されている。また、容器本体は

、カップ状、皿状、箱状に形成された場合でも、容器本体の縁部に蓋材がヒートシールにより熱融着されており、折曲部で蒸気圧を排出するように工夫がなされている。しかし、調理後に、蓋を開け易くするようなことや、食材によって、容器が適宜に選択されるように構成されたものはなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、上記事情に基づいてなされたものであり、電子レンジなどで加熱された場合でも、適度に湿度を保った状態で調理でき、開封が容易にできる食品用容器を開発することである。また、食品素材が持つ旨みを最大限引き出すために、味付け手段を別体として備え、人手を介さず食材を味付けし、さらに、味付け手段が手軽に取り出せるような食品調理容器を開発することである。

【0004】

【課題を解決するための手段】

請求項1の発明は、食品素材を外部加熱手段で加熱調理するように、ポリオレフィン系のシートで形成した食品調理容器であって、2枚重ね合わせた前記シートの側周を接着して形成した接着部と、前記接着部とは別に、その接着強度よりも弱い接着強度で接着した調圧部と、を備え、加熱で発生する蒸気圧で、前記調圧部を押し開くように構成したことを特徴とする。

【0005】

これにより、電子レンジなどの外部加熱手段を利用し、適度に湿度を保った状態で調理できることから、食品素材の持つ旨みが最大限に引き出されて、美味しい食品が提供できる食品調理容器である。また、食品調理容器全体を袋状に形成したもので、保管スペースをほぼ食品素材が有する容積とすることができ、保管スペースの無駄がなく、持ち運びにも便利である。また、調圧部が、加熱で発生する蒸気圧で、接着部を押し開くように構成されており、容器の形成が容易であると共に、開封が容易なものとなる。

【0006】

請求項2の発明は、食品素材を外部加熱手段で加熱調理するように構成した食品調理容器において、開口部の周縁を縁取りして形成した容器本体と、前記容器

本体を覆うと共に、前記開口部の周縁で接着された蓋体と、前記蓋体の一部が、加熱で発生する蒸気圧で剥離するように、前記容器本体に対する接着力を弱めて形成した調圧部と、前記食品素材を味付けするために、前記食品素材に載置して設けた調味料パックと、を備えたことを特徴とする。

【0007】

このような食品調理容器は、接着力を弱めて形成した調圧部と、食品素材に載置して設けた調味料パックとが備えられているので、調味料パックが食品素材を自動的に味付けし、調理が手軽なものとなる。また、適度に湿度を保った状態で調理できることから、食品素材の持つ旨みが最大限に引き出されて、美味しい食品が提供できると共に、開封が容易にできる食品調理容器とすることができる。さらに、調圧部は、食品調理容器の破裂を防止し、安全なものとする。

【0008】

請求項3の発明は、前記食品素材が麺類やパスタ類であり、前記容器本体を有底筒状に形成したことを特徴とする。

【0009】

容器本体が有底筒状に形成されているので、蓋体も円形に形成される。これにより、その蓋体にはデザインが好適に描けるものとなり、広告宣伝等、一体的デザインを描けるものとなる。

【0010】

請求項4の発明は、前記食品素材がうな重や鰻の蒲焼であり、前記容器本体を箱型に形成すると共に、前記蓋体が角部で剥離するように形成したことを特徴とする。また、請求項5の発明は、前記調味料パックが、ご飯の上に載置され、鰻は、前記調味料パックの上に載置されるように構成したことを特徴とする。また、請求項6の発明は、前記調味料パックが、前記蓋体と連結して形成したことを特徴とする。

【0011】

これにより、蓋体は、角部で剥離するものとなり、開封が容易になる。また、通常、鰻は、事前に味付けされているから、調味料パックを、ご飯の上に載置して、主に、ご飯が味付けできる。運搬等の理由で、容器に多少の揺れや振動が伝

わるが、そのような場合でも、調味料パックは、鰻の重さで動き難くなっており、加熱調理された際に、ご飯を味付けする範囲が偏らない。さらに、蓋体と調味料パックとが連結して形成された場合は、味付け位置が固定でき、ご飯の味付けが、所望の範囲で確実に行うことができる。

【0012】

請求項7の発明は、前記調味料パックが、手で把持可能につまみ部を備えて形成した第1のシートと、前記シートに重なるように形成した第2のシートと、前記第1、第2のシート間に収納される液体調味料と、を備え、前記第1、第2のシートの周囲は、その一部に、加熱で発生する蒸気圧で開口し、前記液体調味料が流出するように、接着力を弱めて形成した剥離部を設けたことを特徴とする。また、請求項8の発明は、前記つまみ部が、シートの一部を折り畳むと共に、その折り畳み部分を接着して形成したことを特徴とする。また、請求項9の発明は、前記調味料パックが、食品素材と共に食すことができるように、可食素材で形成したことを特徴とする。

【0013】

容器本体内に、調味料パックが備えられた場合は、加熱で液体調味料を流出させて、食品素材を味付けするので、人手を介さず食材を味付けでき、調理の手間が省ける。また、味付け後の調味料パックの回収に手を汚すことがない。また、調味料パックが、可食素材で形成され、液体調味料を加熱で流出するように備えられた場合は、食品調理容器を構成する部品を少なくできる。

【0014】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を、図に基いて詳細に説明する。図1から図6は、第1の実施の形態を示したものである。図1は本発明の食品調理容器1の平面図であり、図2は側面図である。また、図3は本発明の食品調理容器1の斜視図である。食品調理容器1は、適当な柔軟性と、調理時の加熱に耐え得る耐熱性を有するポリオレフィン系の透明シート7を2枚重ね合わせて、そのシートの側周を接着部3として、強固に接着したものである。また、その接着部3とは別に、その接着強度よりも弱い接着強度で接着された底部が調圧部2として形成され、全

体として袋状になっている。この調圧部 2 は、加熱で発生する蒸気圧で、押し開かれるように、適当な接着強度で接着されている。

【0015】

食品調理容器 1 は、挿入口 4（開口部）から食品素材を挿入できるように、袋状に形成されており、食品素材を挿入後は、その挿入口 4 を熱シール等で密封して加熱されるものである。これにより、適度に湿度を保った状態で、食品素材を調理するものである。加熱手段としては、一般的に、電子レンジなどの外部加熱手段が利用されるが、加熱で発生する蒸気圧で、食品調理容器 1 の内部は、高圧になる。しかし、本発明の食品調理容器 1 は、所定の蒸気圧で、調圧部 2 の接着が押し開かれて剥がれるので、食品調理容器 1 が破裂する危険はなく、安全に加熱調理できる。

【0016】

図 4 から図 6 は、本発明の食品調理容器 1 に、食品素材 5 を挿入して加熱した状態を経過的に示したものである。

図 4 は、挿入口 4 から挿入した食品素材 5 を熱シール等で密封した状態で、まだ、蒸気圧は発生していない。図 5 は、加熱で蒸気 15 が発生し、シート 7 を押し上げた状態である。図 6 は、蒸気 15 が調圧部 2 の接着強度を越えたことにより、調圧部 2 の接着が剥がれ、蒸気が排出した状態である。このような、食品調理容器 1 で調理される食品素材 5 としては、一例として、保温状態で蒸らして調理する、小籠包（ショウロンポウ）、餃子、シュウマイ、春巻き、肉まん、チャーハン等がある。また、食品素材 5 の乾燥を防ぐので、ご飯、カレーライス、スパゲッティ、ヤキソバなどを適度に湿度を保った状態で加温することもでき、食品素材 5 の持つ旨みが最大限に引き出せる。

【0017】

図 7 から図 12 は、第 2 の実施の形態を示したものであり、図 7 は、この実施の形態の食品調理容器 1 を示した斜視図であり、図 8 は、その断面図である。図 7 及び図 8 に示すように、この食品調理容器 1 は、容器本体 1a を有底筒状に形成すると共に、開口部の周縁を縁取りして形成し、蓋体 9 は、容器本体 1a を覆うように、その開口部の周縁に接着された接着部 3 を有して形成されている。こ

の接着部 3 の一部には、加熱で発生する蒸気圧で蓋体 9 の一部が剥離するように、容器本体 1 a に対する接着力を弱めて形成した調圧部 2 が設けられている。また、食品素材 5 を味付けするために、食品素材 5 の上には、調味料パック 6 が載置されている。

【0018】

図 9 及び図 10 は、調味料パック 6 を示したものであり、図 9 (a) は、平面図、図 9 (b) は、その側面図である。また、図 10 は、調味料パック 6 の斜視図である。この調味料パック 6 は、液体調味料を収納するように、2 枚のシートが重ねられ、周囲が接着されて形成されている。2 枚のシートの一方（第 1 のシート 7 a）は、その一部を折り畳むと共に、その折り畳み部分を接着して形成したつまみ部 8 を備え、手で把持可能に構成されている。また、他方のシート（第 2 のシート 7 b）と一方のシート（第 1 のシート 7 a）とは、その一部に、加熱で発生する蒸気圧で開口し、液体調味料を流出するように、接着力を弱めて接着された剥離部 12 が形成されている。

【0019】

図 11 は、図 7 及び図 8 の状態で加熱した場合を示したものである。図 11 に示すように、蓋体 9 は、加熱による蒸気圧で盛り上がっているが、調圧部 2 が設けられていることにより、蓋体 9 の一部が剥離し、蒸気 15 が排出されている。これにより、食品調理容器 1 が破裂する危険はなく、さらに、加熱による乾燥を防ぎながら、安全に加熱調理できるものである。

【0020】

図 12 は、図 11 の内部を示した断面図であり、外部加熱手段により、加熱された状態を示したものである。この食品調理容器 1 の内部には、食品素材 5 の上に調味料パック 6 が載置されて収納されている。この調味料パック 6 の中には、液体調味料 10 が収納されており、加熱による蒸気圧で、剥離部 12 の接着が剥がれ、内部の液体調味料 10 は流出する。これにより、電子レンジなど電磁波を用いた外部加熱手段で、調味料パック 6 は、自動的に、食品素材 5 を液体調味料 10 で味付けするものとなる。このような、食品調理容器 1 で味付け（調理）される食品素材 5 としては、麺類やパスタ類などがあり、調味料パック 6 の中に備

えられる調味料は、ミートソースやケチャップ、麺露などが適宜に用いられる。
この実施の形態において、食品調理容器 1 の蓋体 9 と調味料パック 6 とを連結して構成することもできる。これにより、調味料パック 6 は、蓋体 9 を開けると同時に取り除かれて、手を汚すことがない。

【0021】

図 13 から図 19 は、第 3 の実施の形態を示したものであり、図 13 は、この実施の形態の食品調理容器 1 を示した平面図であり、図 14 は、その断面図である。この食品調理容器 1 は、図 13 及び図 14 に示すように、容器本体 1a を箱型に形成し、角部で蓋体 9 が剥離するようにその角部に調圧部 2 を形成したものである。また、調味料パック 6 は、ご飯（食品素材 5）の上に載置し、鰻（食品素材 5a）は、調味料パック 6 の上に載置するように構成し、主に、ご飯を味付けするように構成する。したがって、特に、うな重、鰻の蒲焼、うな井などに好適に利用できる。この場合、調味料パック 6 の中に収納される液体調味料 10 は、鰻のたれである。

【0022】

図 15 及び図 16 は、図 14 の状態で加熱した場合を示したものである。図 15 及び図 16 に示すように、蓋体 9 は、加熱による蒸気圧で盛り上がっているが、調圧部 2 が設けられていることにより、蓋体 9 の一部が剥離し、蒸気 15 が排出されている。また、加熱による蒸気圧で、調味料パック 6 に設けられた剥離部 12 の接着が剥がれ、内部の液体調味料 10 が流出している。この実施の形態においては、特に、食品素材 5a が、既に味付けされているような鰻であることから、調味料パック 6 を、ご飯（食品素材 5）の上に載置し、主に、ご飯を味付けするように構成したものである。

【0023】

図 17 は、主に、ご飯を味付けした後に、蓋体 9 を手で押し広げていることを示したものであり、また、調味料パック 6 のつまみ部 8 をつまむことにより、容易に、調味料パック 6 を取り除けることを示したものである。

この、この実施の形態において、食品調理容器 1 の蓋体 9 と調味料パック 6 とを連結して構成することもできる。これにより、調味料パック 6 は、蓋体 9 を開

けると同時に取り除かれて、手を汚すことがない。連結手段としては、紐なども利用できるが、特に、限定されるものではなく、蓋体 9 と調味料パック 6 とを一体的に形成することもできる。また、蓋体 9 と調味料パック 6 とが、連結された場合、食品調理容器 1 内で、味付け位置が固定でき、ご飯（食品素材 5）などの味付けが、所望の範囲で確実に行うことができる。

【 0 0 2 4 】

図 1 8 は、図 1 7 の状態を概略的に示したものであり、調味料パック 6 のつまみ部 8 が、食品素材 5 a の隙間から視認されていることを示している。これにより、手を汚すことなく容易に調味料パック 6 が取り除ける。また、この図に示したように、調味料パック 6 は、ご飯（食品素材 5）の上に載置され、鰻（食品素材 5 a）は、調味料パック 6 の上に載置するように構成されていることから、調味料パック 6 の動きが抑制されるものとなっている。即ち、鰻（食品素材 5 a）の重さで、調味料パック 6 は、多少の揺れや振動があった場合でも、動き難くなっており、加熱調理された際に、ご飯を味付けする範囲が偏らない。

図 1 9 は、図 1 6 の状態を外観的に示した図である。即ち、調圧部 2 において、蓋体 9 は、その接着が剥離しており、また、若干浮き上がっていることから、その部分の蓋体 9 を手で持ち上げて、蓋体 9 の接着を剥すことができる。

【 0 0 2 5 】

以上、説明したように、本発明の食品調理容器 1 は、電子レンジ等を利用し、適度に湿度を保った状態で食品素材を調理することができると共に、開封が容易にできるものである。また、食品素材が持つ旨みを最大限引き出すために、味付け手段を別体として備え、人手を介さず食材を味付けできる。更に、味付け手段（調味料パック 6）には、つまみ部 8 が設けられており、手を汚すことがない。

このような、味付け手段は、調味料パック 6 を可食素材で形成し、食品素材と共に食すように構成してもよい。例えば、加熱により液状化する食材に調味料を含浸させることや、可食素材を利用し、耐水性を備えて袋状に形成し、その中に、液体調味料 1 0 を入れて実施される。即ち、熱で溶解するゼリー体に醤油もしくはたれを混ぜて形成することや、多糖類フィルムに耐水性を備えるように表面処理することにより実施できる。さらに、調味料パック 6 に、破袋部を形成し、

周囲に対して、破裂し易いように薄く形成することや、熱に弱い材質で形成することもできる。

【0026】

【発明の効果】

本発明は、以上説明したように構成されているので、以下に記載するような効果を奏する。

即ち、電子レンジなどの外部加熱手段を利用することにより、調味料パックが食品素材を自動的に味付けし、調理が手軽なものとなる。また、適度に湿度を保った状態で調理できることから、食品素材の持つ旨みが最大限に引き出されて、美味しい食品が提供できると共に、開封が容易にできる食品調理容器とすることができる。食品調理容器全体を袋状に形成した場合は、保管スペースをほぼ食品素材が有する容積とすることができ、保管スペースの無駄がなく、持ち運びにも便利である。食品調理容器が、その容器本体を蓋部で覆うように形成されたものは、その周囲にデザインを好適に描けるものとなり、広告宣伝等、一体的デザインを描けるものとなる。容器本体内に、調味料パックが備えられた場合は、加熱で液体調味料を流出させて、食品素材を味付けするので、人手を介さず食材を味付けでき、調理の手間が省ける。

【0027】

また、調味料パックにつまみ部を備えたり、調味料パックを蓋体に連結することにより、味付け後の調味料パックの回収に手を汚すことがなくなる。また、調味料パックの上に、鰻等の食材を載置させて構成した場合には、その食材の重さで、調味料パックの動きが抑制され、ご飯の味付けが偏らない。調味料パックを蓋体に連結した場合は、さらに、食品調理容器内で、味付け位置が固定でき、ご飯の味付けが、所望の範囲で確実に行うことができるものとなる。調味料パックが食品素材を味付けする食材で形成された場合は、食品調理容器を構成する部品が少なくできる。この食品調理容器には、調圧部が設けられているので、破裂する危険はなく、加熱による乾燥を防ぎながら、安全に加熱調理できるものである。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明に係る第 1 の実施の形態を示した平面図である。

【図 2】

本発明に係る第 1 の実施の形態を示した側面図である。

【図 3】

本発明に係る第 1 の実施の形態を示した斜視図である。

【図 4】

加熱した状態を経過的に示した説明図である。

【図 5】

加熱した状態を経過的に示した説明図である。

【図 6】

加熱した状態を経過的に示した説明図である。

【図 7】

本発明に係る第 2 の実施の形態を示した斜視図である。

【図 8】

本発明に係る第 2 の実施の形態を示した断面図である。

【図 9】

(a) は、調味料パックを示した平面図である。

(b) は、調味料パックを示した側面図である。

【図 10】

調味料パックを示した斜視図である。

【図 11】

加熱状態を示した外観図である。

【図 12】

加熱状態を示した断面図である。

【図 13】

本発明に係る第 3 の実施の形態を示した平面図である。

【図 14】

本発明に係る第 3 の実施の形態を示した断面図である。

【図 1 5】

加熱状態を示した断面図である。

【図 1 6】

加熱状態を示した断面図である。

【図 1 7】

調味料パックの取り出しを説明する説明図である。

【図 1 8】

図 1 7 における斜視図である。

【図 1 9】

図 1 6 における状態を外観的に示した図である。

【符号の説明】

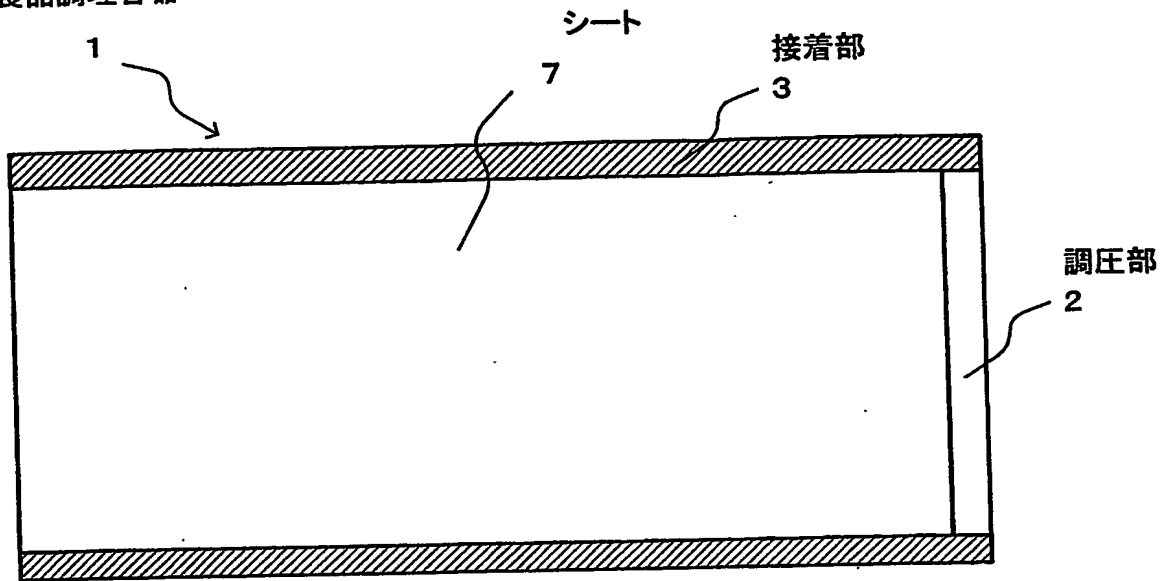
- 1 食品調理容器
- 1 a 容器本体
- 2 調圧部
- 3 接着部
- 4 挿入口
- 5、5 a 食品素材
- 6 調味料パック
- 7 シート
- 7 a 第 1 のシート
- 7 b 第 2 のシート
- 8 つまみ部
- 9 蓋体
- 1 0 液体調味料
- 1 2 剥離部
- 1 5 蒸気

【書類名】

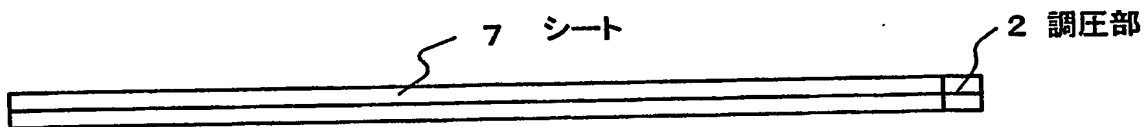
図面

【図 1】

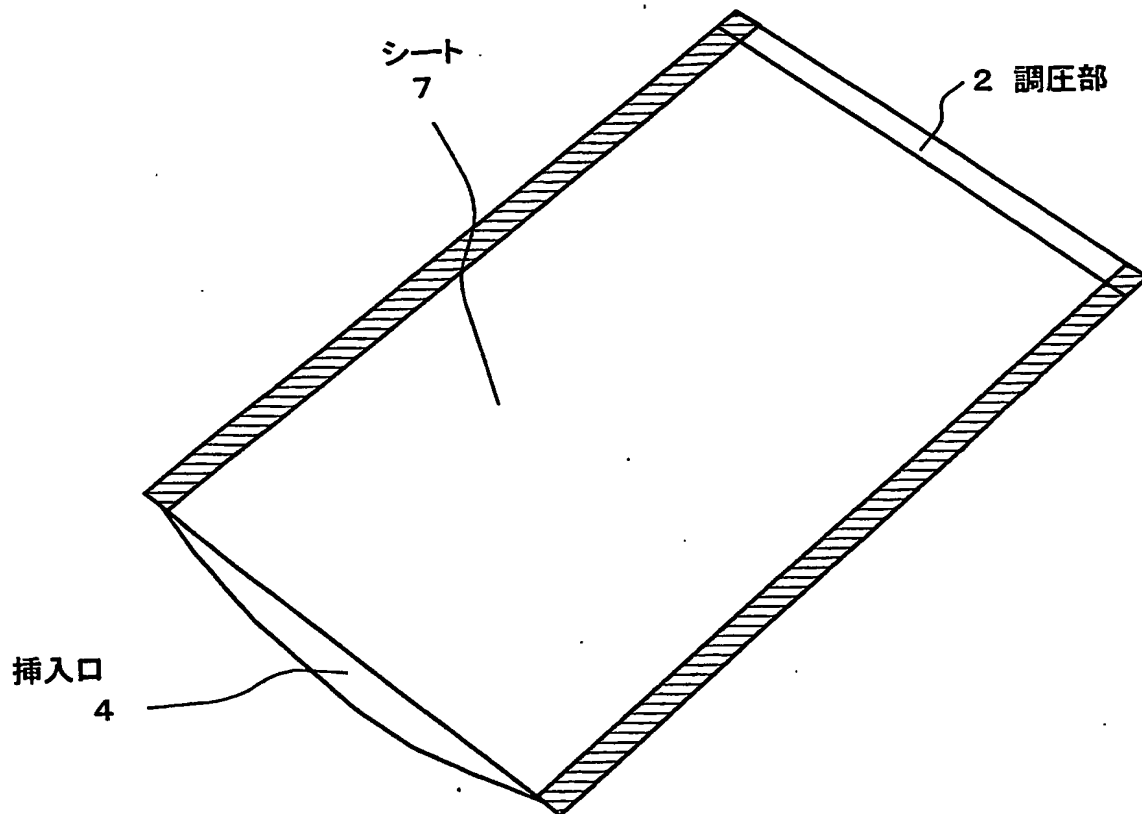
食品調理容器



【図 2】

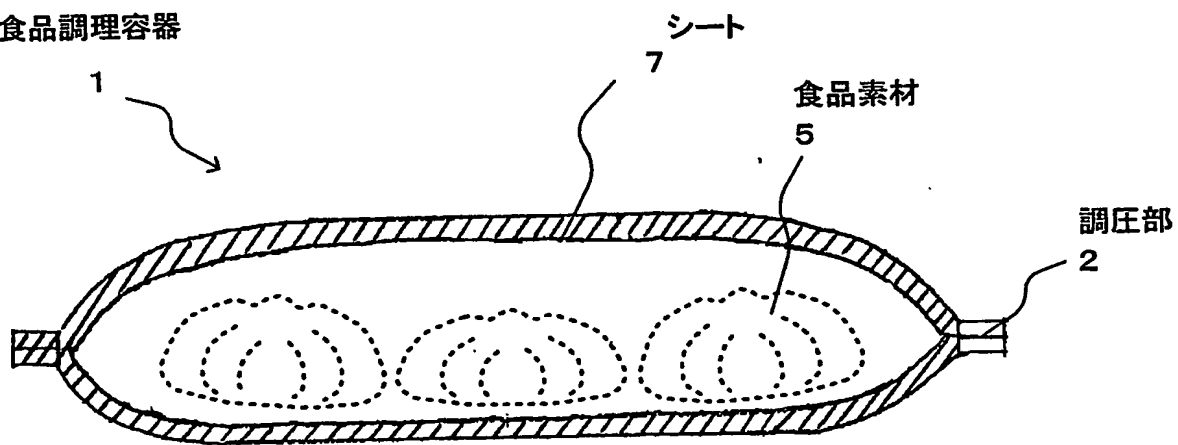


【図3】

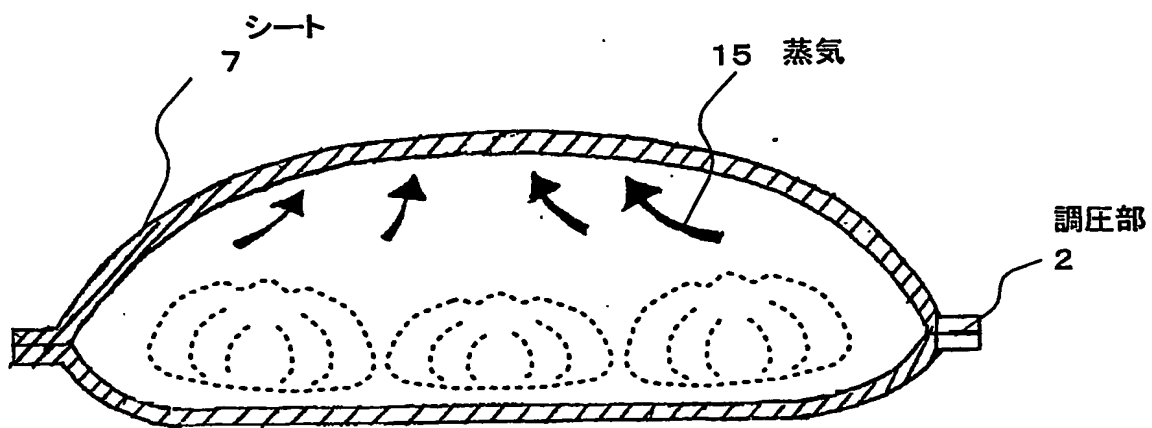


【図4】

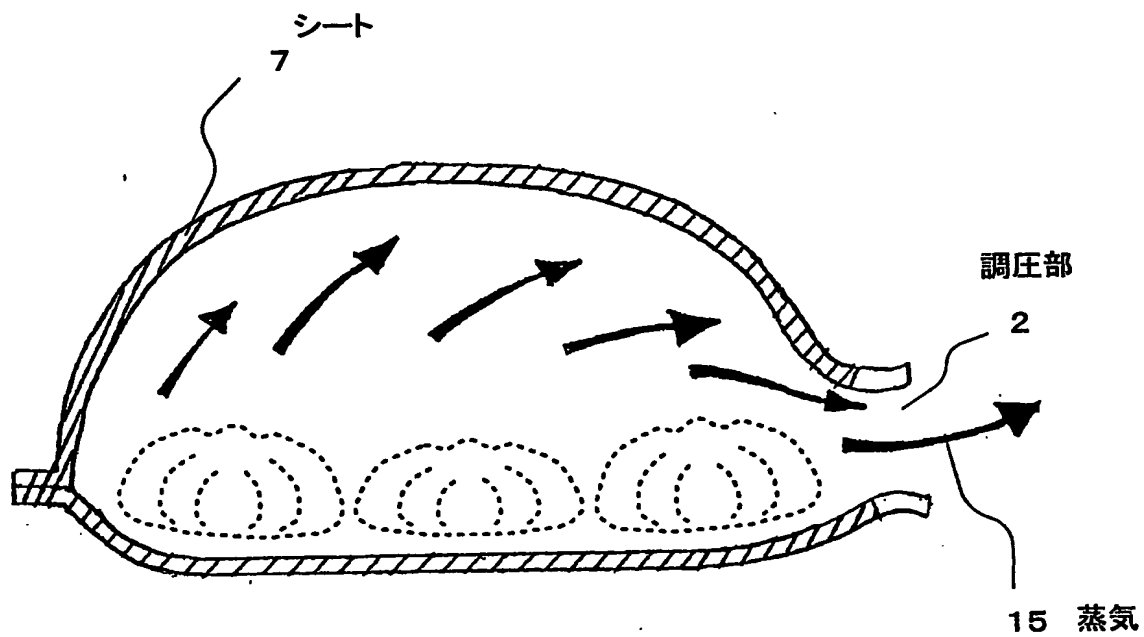
食品調理容器



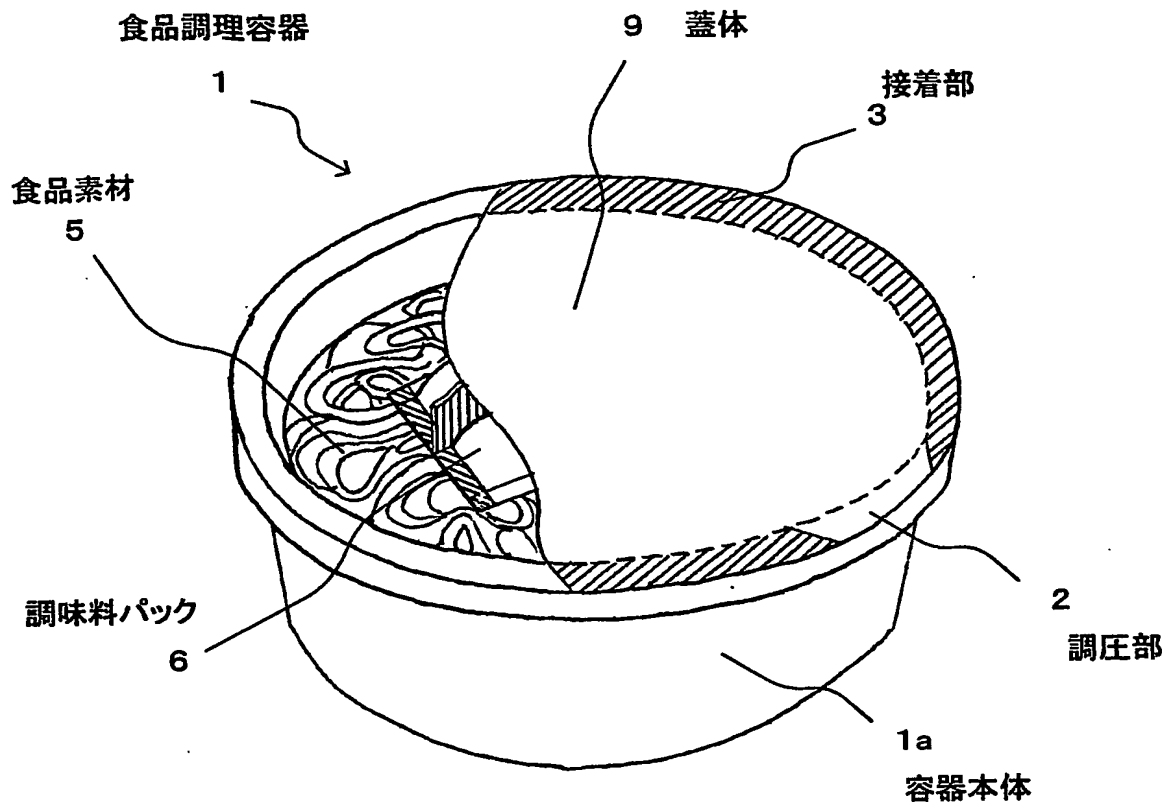
【図5】



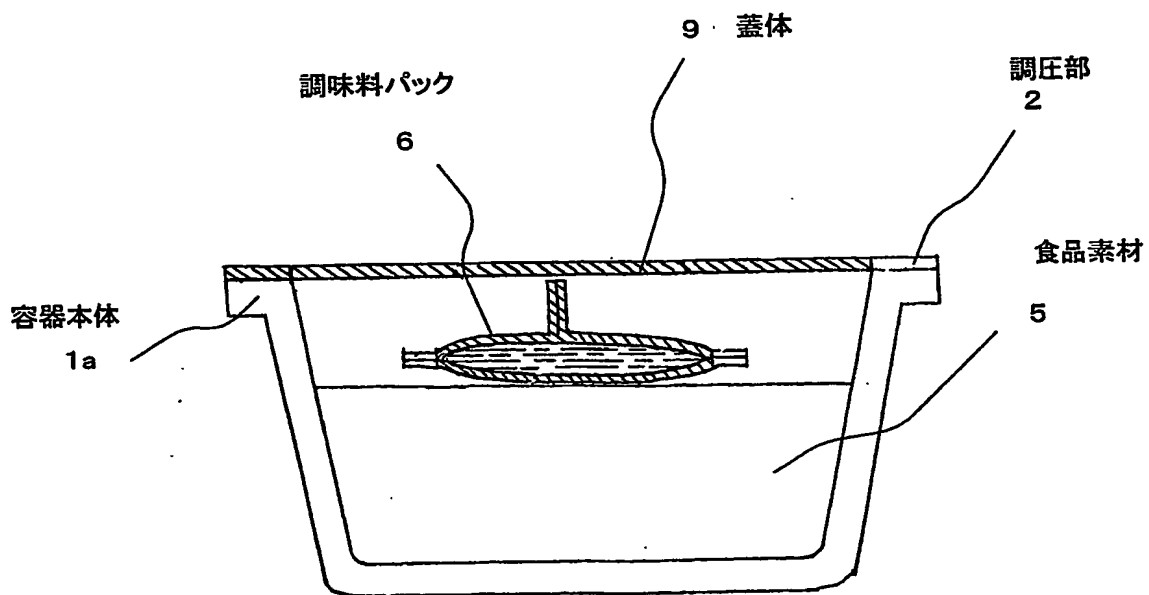
【図6】



【図 7】



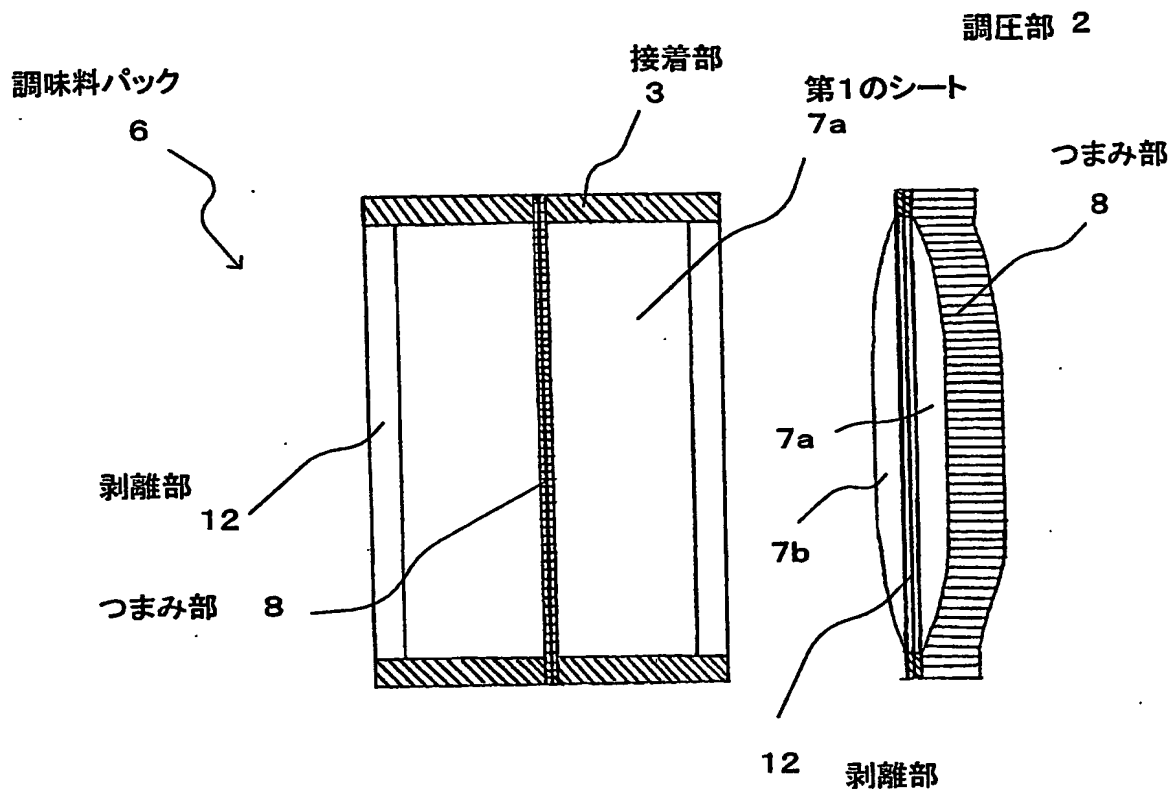
【図 8】



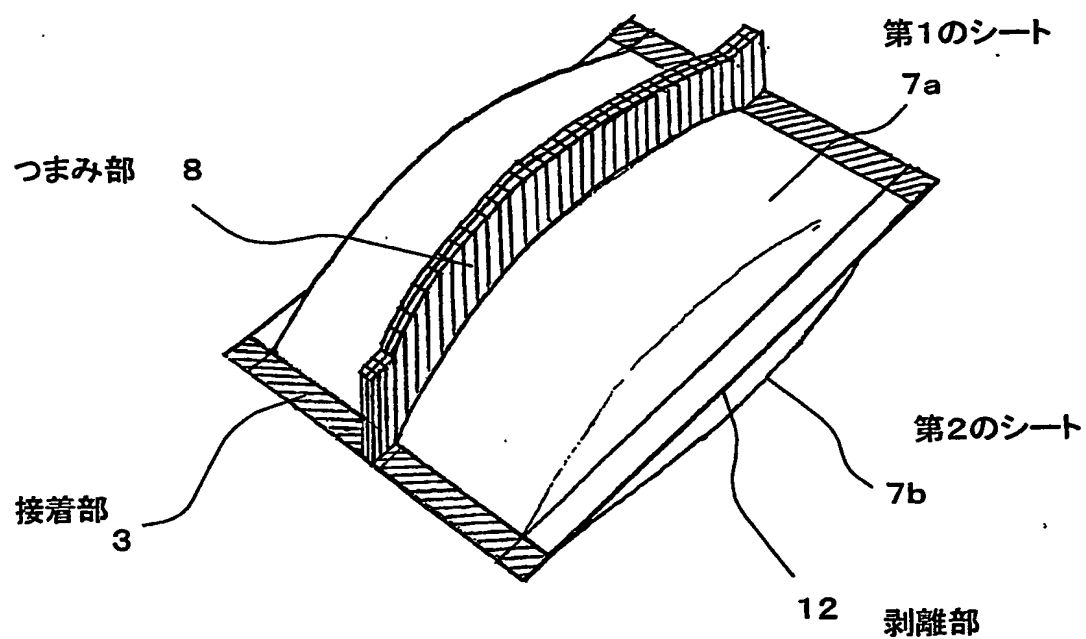
【図9】

(a)

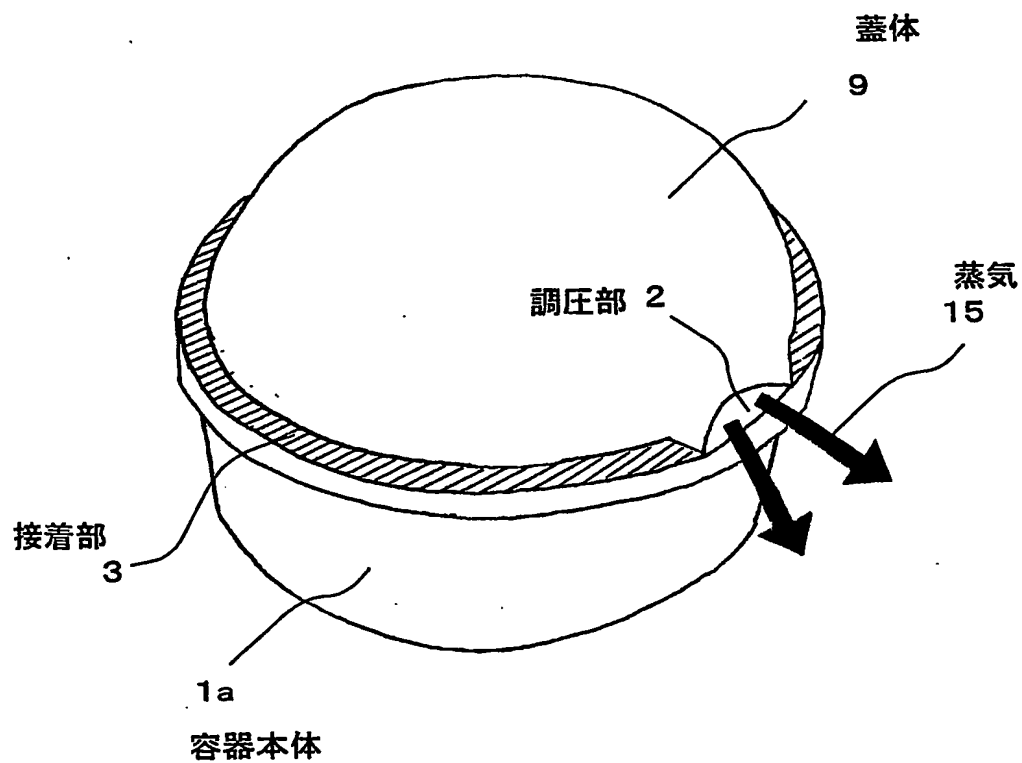
(b)



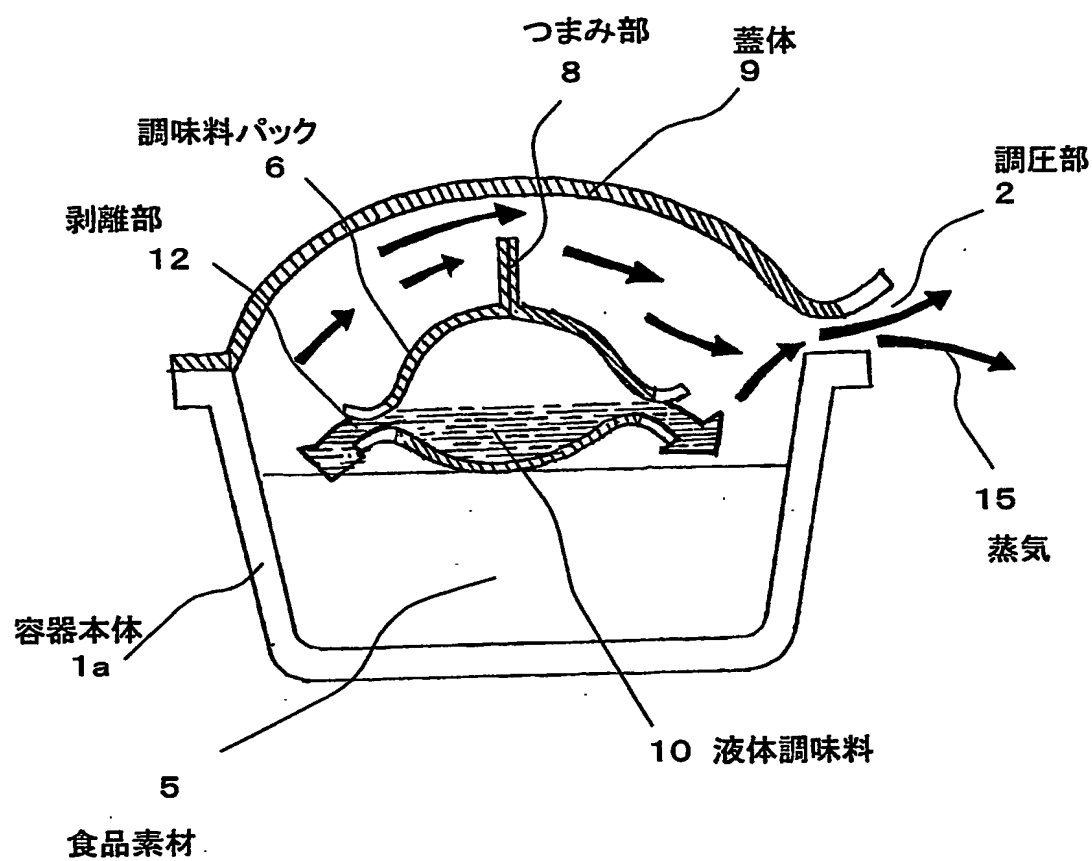
【図10】



【図11】

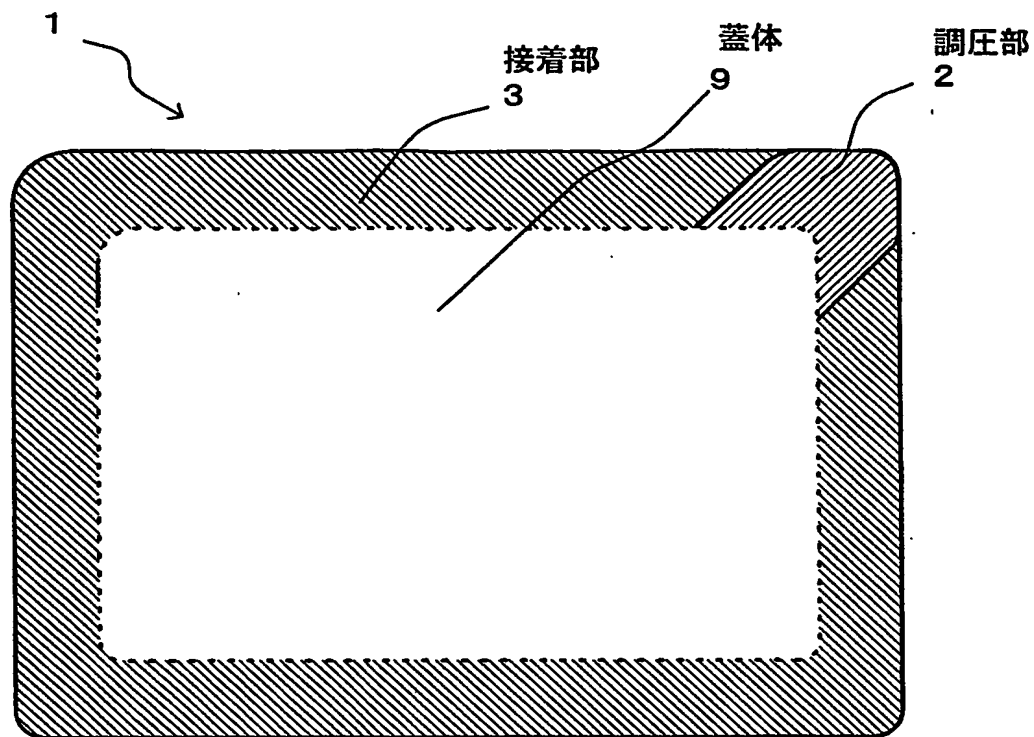


【図 12】



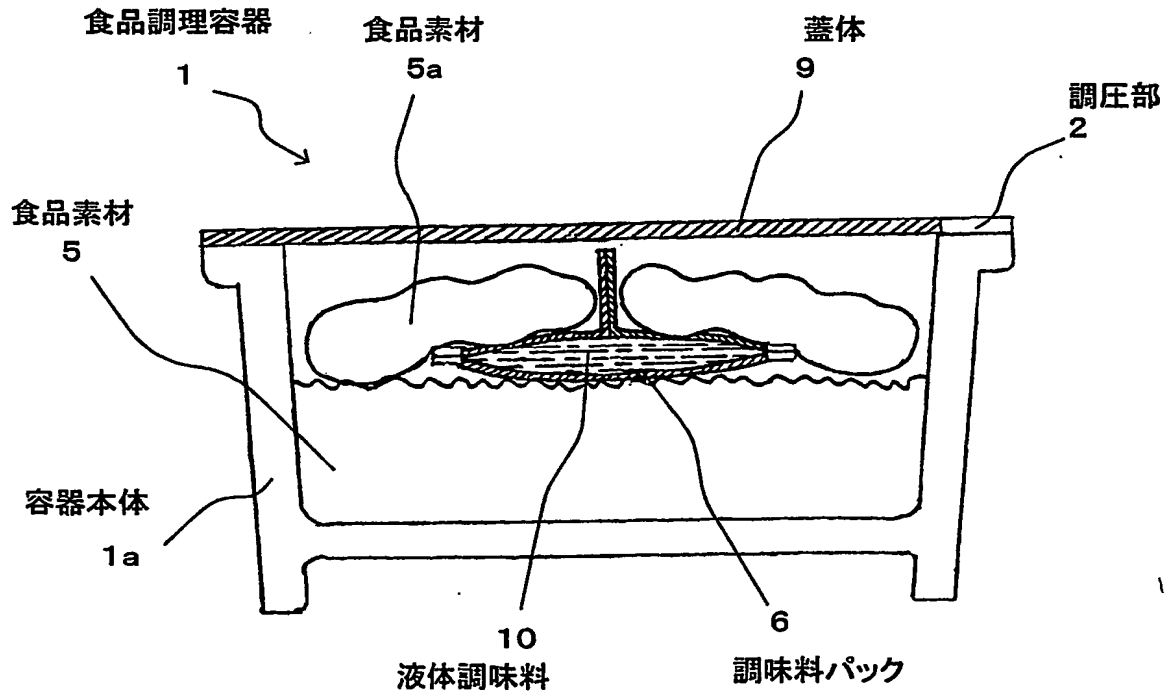
【図13】

食品調理容器

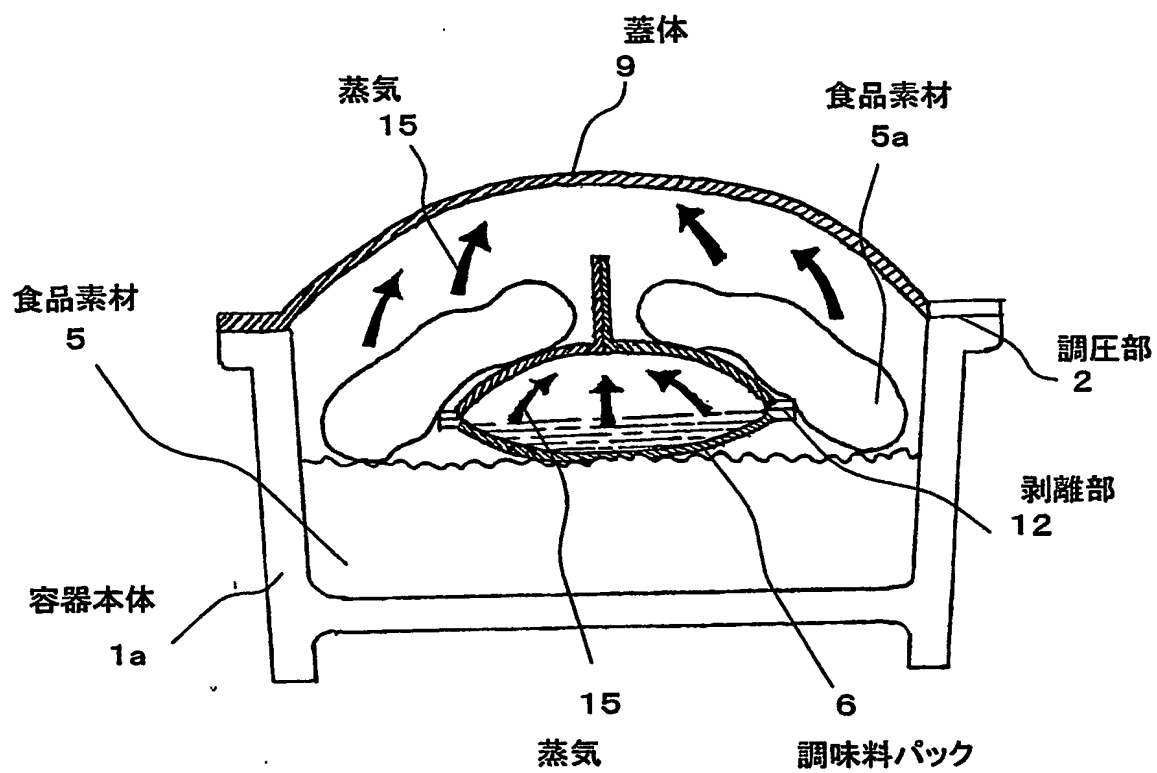


【図14】

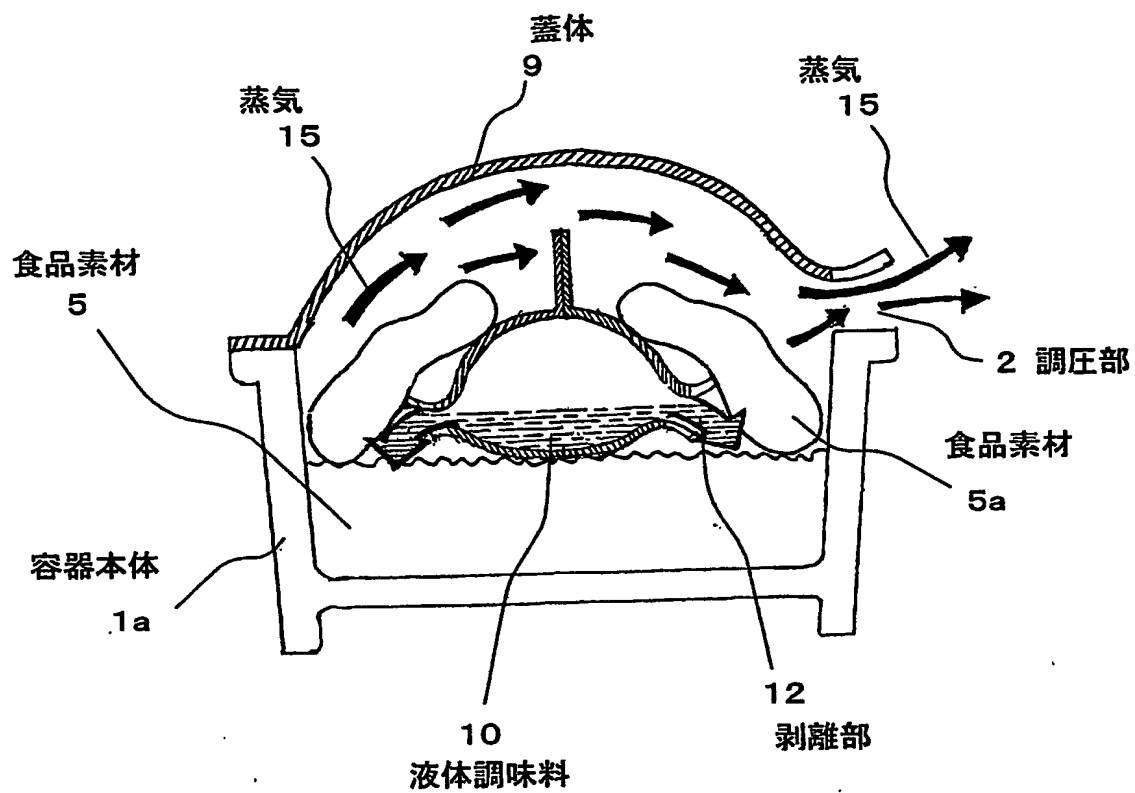
食品調理容器



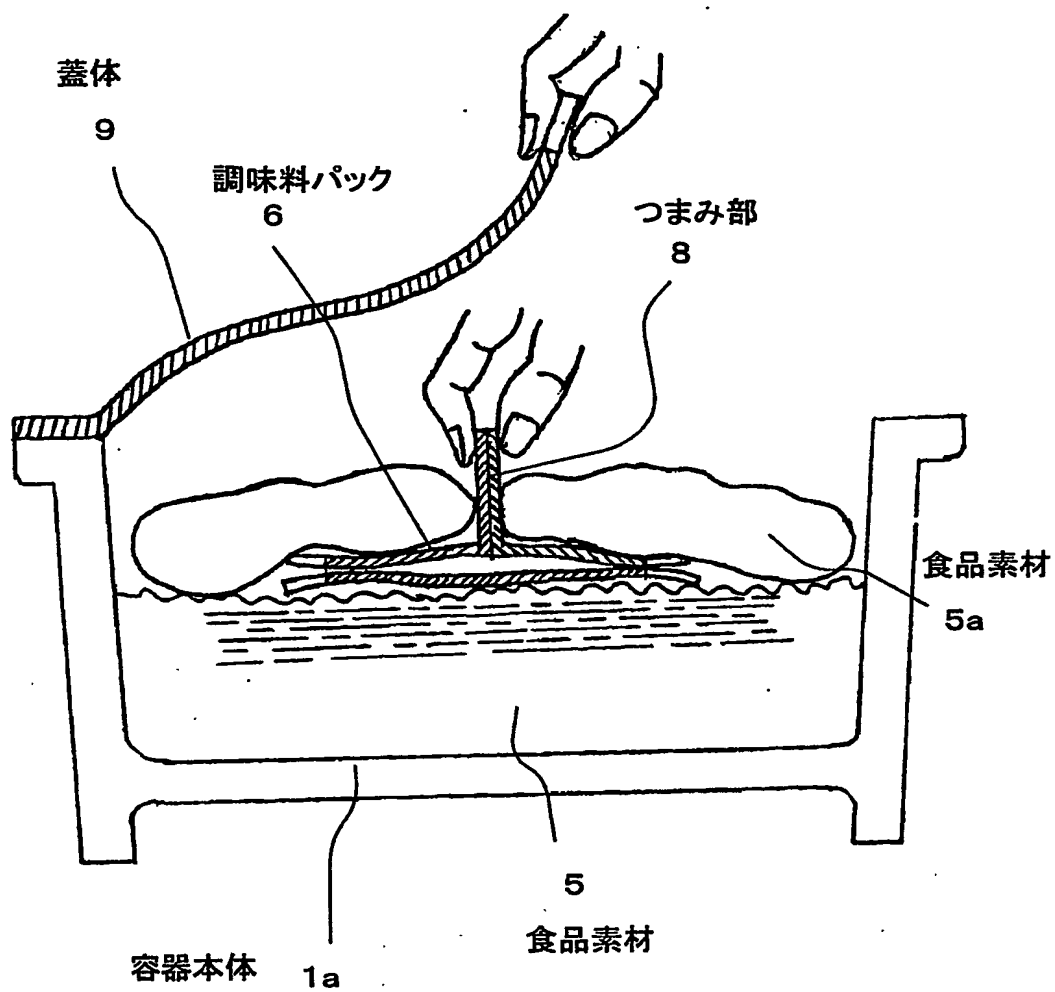
【図15】



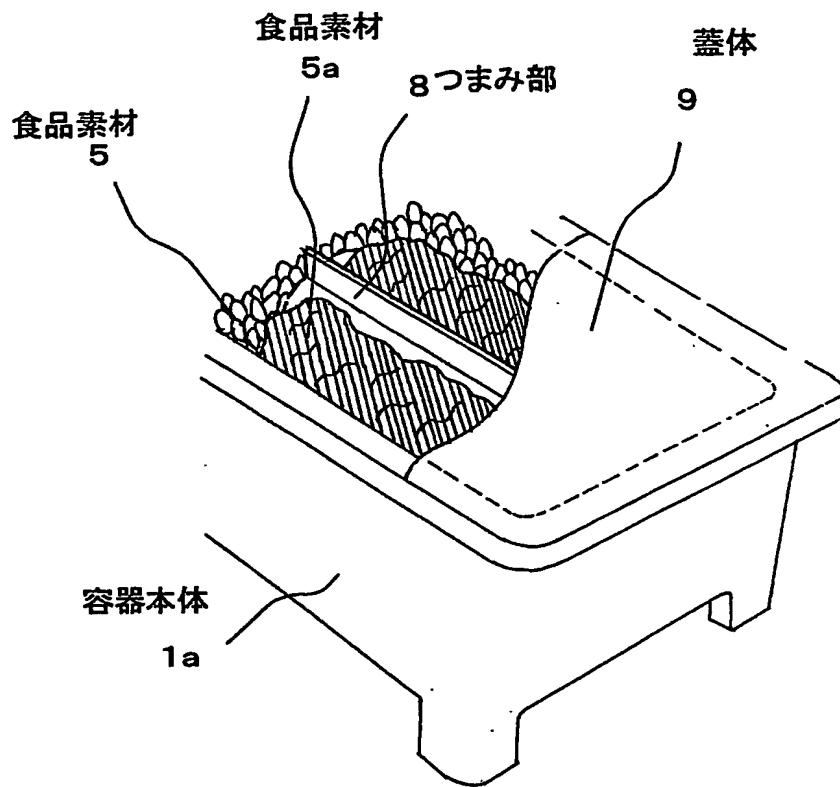
【図16】



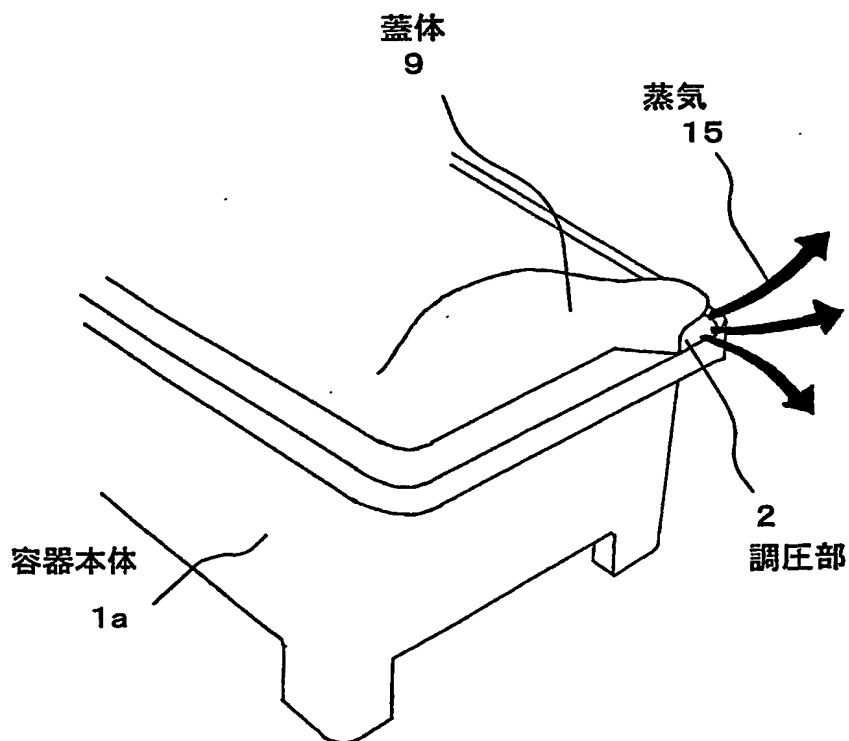
【図17】



【図18】



【図19】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 電子レンジなどで加熱された場合でも、適度に湿度を保った状態で調理でき、開封が容易にできる食品用容器を開発することである。また、味付け手段を別体として備え、人手を介さず食材を味付けし、さらに、味付け手段が手軽に取り出せるような食品調理容器を提供する。

【解決手段】 食品素材を外部加熱手段で加熱調理するように、ポリオレフィン系のシートや、容器本体と蓋体とで形成される食品調理容器に、接着強度を弱めて調圧部を設ける。この調圧部は、加熱で発生する蒸気圧で開封するように形成されており、また、食品素材を味付けするために、調味料パックが備えられ、加熱による蒸気圧で、開口し、液体の調味料を流出させる。この調味料パックは、手で把持可能につまみ部を備えて形成されており、味付け調理後に取り出し易いものとなっている。

【選択図】 図 1 6

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2002-100529
受付番号	50200476783
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0093
作成日	平成14年 4月 8日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成14年 4月 2日
-------	-------------

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [502117929]

1. 変更年月日	2002年 4月 2日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都港区三田二丁目7番9号
氏 名	小澤 茂男